

はじめに

近年、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化等、地域を取り巻く環境が急激に変化しており、地域活動の担い手不足がますます深刻になっているとともに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う地域活動の縮小により、地域コミュニティが大きな影響を受けている状況にあります。

地域団体の皆様のお困りごとを伺いましたところ、こうした状況の中でも、地域活動の担い手不足の解消をはじめ、課題解決に取り組まれている事例がいくつもありました。

この実践集には、地域活動における課題解決の参考となる好事例などを掲載させていただきました。これらをヒントに、それぞれの地域に合った方法を考えるきっかけになれば幸いです。

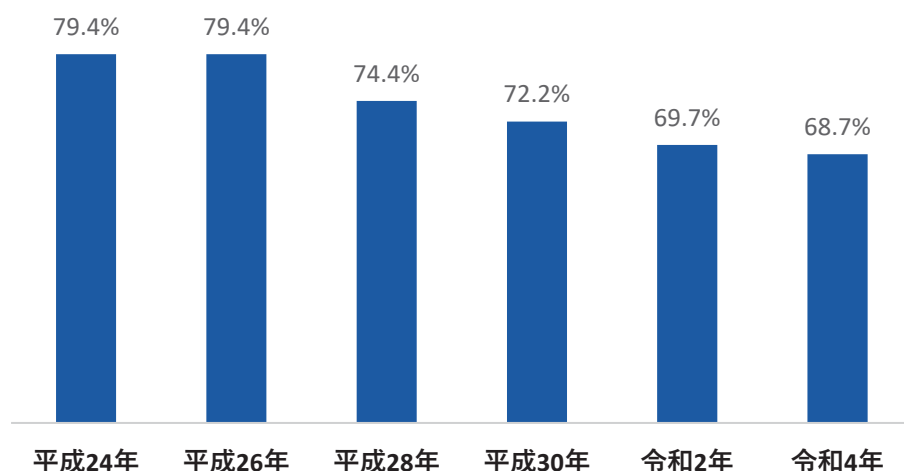
目 次

1 名古屋市における地域コミュニティの現状	P. 1
2 7つの悩み「こんな風に工夫しています！」～好事例・先進事例の紹介～	
(1) 担い手づくり 担い手や新しい人を取り込む方法が分からない	P. 4
▶「地域の人たちの特技を活かす場をつくる」 東区 矢田学区	P. 5
▶「地域への貢献者を見つけて発信する」 中村区 日比津学区	P. 7
▶「『家族のために』を参加の入口にする」 瑞穂区 汐路学区	P. 9
▶「地域に住む中学生にも活躍してもらう」 港区 稲永学区	P.11
コラム「役に捉われない地域活動への参画」 緑区 平子学区	P.13
(2) 運営の工夫 活動を効率化して、役員の負担を軽減したい	P.14
▶「ゆるく、気軽に活動に関われるようにする」 西区 児玉学区	P.15
▶「役員の業務を細分化する」 中川区 篠原学区	P.17
コラム「SNS を活用した情報共有や広報」 瑞穂区 豊岡学区	P.19
(3) 参加促進 活動や行事への参加者を増やす方法が分からない	P.20
▶「学生の参加の動機づけを与える」 千種区 宮根学区	P.21
▶「親子で学びながら参加できるイベントを行う」 緑区 大高学区	P.23
▶「どの世代も参加できる楽しいイベントにする」 名東区 牧の原学区	P.25
コラム「積極的な活動の再開」 守山区 小幡学区	P.27
(4) 愛着・魅力づくり 住民に地域へ愛着を持ってもらう方法が分からない	P.28
▶「どの世代にも興味を引くテーマを掲げる」 北区 大杉学区	P.29
▶「フラットな関係を大切にし、幅広い世代が関わる」 中区 老松学区	P.31
コラム「地域の歴史と災害対策を一緒に学ぶ」 南区 笠寺学区	P.33
(5) 新しい情報発信 効率的でスムーズに情報発信する方法が分からない	P.34
▶「ホームページにより活動の発信を行う」 守山区 上志段味学区	P.35
▶「電子回覧板により情報共有を行う」 天白区 大坪学区	P.37
コラム 町内会・自治会加入のメリット	P.39
(6) 外部との連携 外部の力をうまく借りる方法が分からない	P.40
▶「相手のニーズやお互いのメリットに留意する」 熱田区 白鳥学区	P.41
▶「協力する人が楽しめる環境をつくる」 南区 明治学区	P.43
コラム「学区出身の若者によるサポート」 中川区 正色学区	P.45
(7) 感染症対策 コロナ禍でもできる地域活動の方法が知りたい	P.46
▶「ひと工夫で接触機会を減らしながら活動を継続する」 昭和区 滝川学区	P.47

名古屋市における地域コミュニティの現状

単身世帯・共働き世帯の増加や、女性・高齢者雇用の増加など、ライフスタイルの変化のほか、新型コロナウイルス感染症拡大による対面での活動縮小・中止などの影響もあり、地域活動への参加者の減少、役員の担い手不足といった課題がますます深刻になっている。

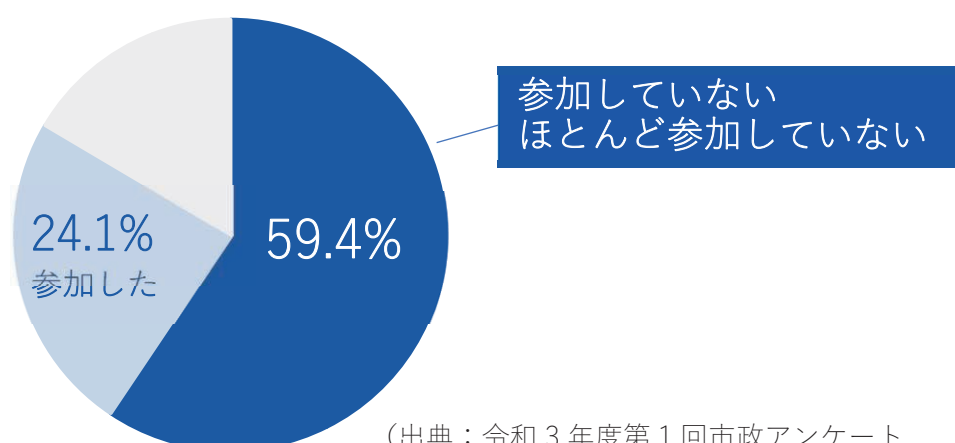
1 町内会・自治会の加入率



(出典：学区別生活環境指標)

令和4年の町内会の加入率は68.7%であり、平成24年の79.4%から10年で10.7ポイント減少しており、右肩下がりの傾向にある。

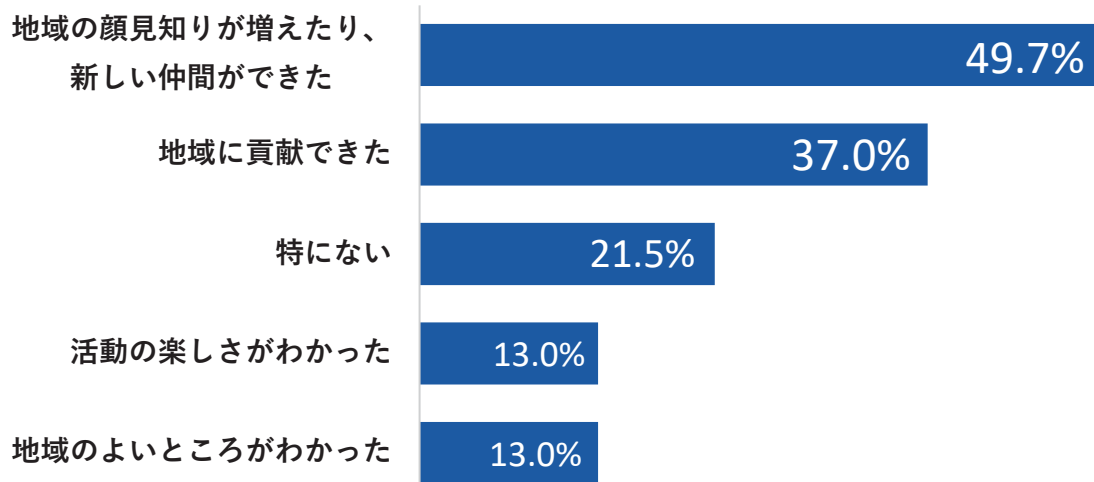
2 直近3年の地域活動への参加



(出典：令和3年度第1回市政アンケート
対象・人数：市内に居住する満18歳以上の市民2,000人)

令和3年度の調査では、直近3年の間で地域活動に参加していない、および、ほとんど参加していない人は59.4%であり、参加率の低さが見て取れる。

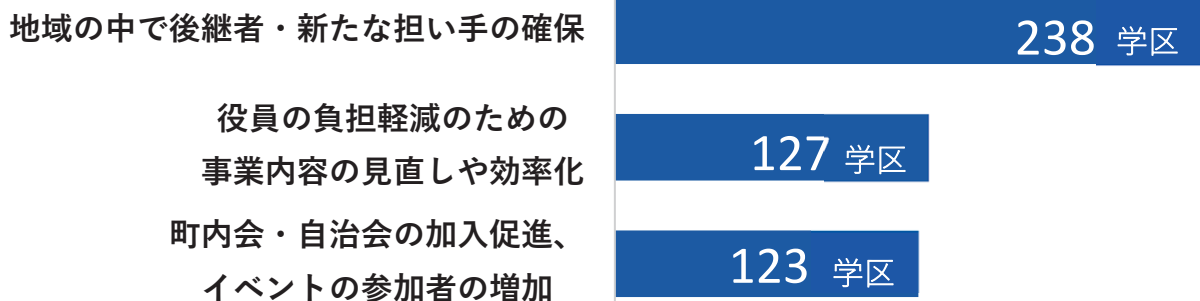
3 地域活動に参加してよかったこと



(出典：令和3年度第1回市政アンケート
対象・人数：市内に居住する満18歳以上の市民2,000人)

令和3年度の調査では、地域活動に参加してよかったこととして、「顔見知りが増えたり、新しい仲間ができた」が最も多く、つながりを得られたことにメリットを感じる人が多い。

4 地域活動の課題 トップ3



(出典：令和4年度地域活動情報ヒアリング
対象：市内267学区)

令和4年度の調査では、地域活動の課題として「担い手の確保」が最も多く、地域活動を継続させるための根本の問題に多くの目が向けられている。

まとめ

町内会等の加入率は低下しており、活動への参加率も低いですが、参加した方からは、顔見知りが増えたなど好意的な声も多い。また、多くの地域が担い手の確保などの課題を抱えている。次ページからは、課題解決に取り組む事例を「担い手づくり」「運営の工夫」「参加促進」「愛着・魅力づくり」「新しい情報発信」「外部との連携」「感染症対策」の区分に分けて掲載する。

(1) 担い手づくり

お悩み

担い手や新しい人を取り込む方法が分からない

- ▶ 地域住民のライフスタイルの変化で、従来の活動頻度や活動時間では参加しづらい人も増えています。
- ▶ 関心のある分野や、可能な範囲で活動に参加したいという人も少なからずいます。参加者を増やすことが担い手の確保につながります。



解決へのヒント・工夫

工夫① 「やってみたい！」を引き出す投げかけ方の工夫

地域の活動に関心があっても、地域との関わり方が分からない人もいます。

「趣味や特技を活かしてみませんか？」と、地域活動を特技やスキルが活かせる場として投げかけることで、新たな担い手の発掘につながられます。

工夫② まずは「家族のため」をきっかけに関わってもらう

若い世代は仕事や子育てに忙しく、「地域のため」の時間をつくる余裕を持たない人が多いです。

身近な家族のため、子どもと一緒にであれば、参加や協力をしたいと思う人も少なくありません。

「家族のため」をきっかけに、地域のための活動をはじめてみましょう。

地域の人材を活かす「矢田人材バンク」

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 特技や趣味に焦点を当てて、新たな地域活動の担い手を発掘

- ・自分の趣味や特技、資格を活かした地域活動への参画を目的として、令和2年2月に「矢田人材バンク」を発足。
- ・学区での地域活動に参加したい人を年齢等を問わず広く募集。これまで学区連絡協議会と関わりのなかった人等 10代～80代までの45名が登録している。

■ 人材バンクという枠組みが、地域のまちづくりへの入口に

- ・人材バンク登録者の中には、知識や経験を活かして地域に貢献したいと思いつつも、地域との接点の持ち方がわからない人もいた。
- ・自分の得意分野や関心が活かせる枠組みが出来たことで、地域活動への参加のしやすさにつながっている。
- ・地域住民の得意なことが把握できたり、普段から地域の中で若い世代も話し合える仕組みが作られたことで、気軽に話し合って問題解決に取り組む体制が構築されつつある。



活動する上での工夫やポイント

■ 活動時期や内容も自分たちで考える！自主性の尊重が成功の秘訣

- ・当初は、学区連絡協議会が主催の企画に対し、登録者へ参加を依頼する発想をしていた。
- ・現在は、登録者の自主性を尊重し、アイデア出しから企画まで参加希望者自身が「楽しい」「やってみたい」と思える内容を、参加者自身で考えていく方式を採用。
- ・「自分たちがやりたいこと」を起点に活動を考えていくため、参加者全員が自然と主体的になり、続けていくうちに一体感が育まれている。

■ 「やってみたい」を引き出すコツは否定語を使わないこと

- ・自ら「やってみたいこと」を提案するのは勇気がいること。わざわざ参画してくれた人たちの気持ちを大切に、否定する言葉は使わないことを心掛けている。

具体的に進めてみよう

ステップ1 関心や特技を活かせる人集め

- 「矢田学区をもっと楽しく！もっと住みやすいまちにするために、あなたの力をお貸しください。あなたの経験を地域で活かしてみませんか？」と投げかける形でPR 募集カードを作成。



矢田人材バンクPR 募集カード

- 文字を読まなくても内容が伝わるようにイラストを添えるなど、デザインも工夫。



矢田学区梅本さん

学区在住の皆さんは、価値観や考え方も実に多様で多彩です。

居心地のいい活動もそうでない活動も感じ方は人それぞれ。だからこそ、取り組んでいく活動の在り方も多様で多彩なものであるべきだと考えました。

ステップ2 自由な発想を受け入れる体制づくり

- 人材バンクから学区連絡協議会に提案され、実行に移すことが決定したものは、学区連絡協議会から、柔軟な取り組みを学区全体でサポートしている。

ステップ3 「自分たちでできること」の企画アイデア出し

- 人材バンク自体が地域活動のエンジンとなって、自分たちでできる事を考えよう！と、アイデアを出し合い、こども合唱団のミニコンサートや、防災・減災大百科、犬ふれあいコーナー、ボーイスカウト体験など多彩なイベントを企画。
- 令和4年度は、矢田マネーを使ったこども商店街、おとなマルシェ、矢田の魅力謎解き探検からなる「矢田ザニア2022」を実施。

活用した制度など

■東区社会福祉協議会の助成事業を活用

- ・PR 募集カードの作成にあたり、社会福祉協議会が実施している助成金を活用。
(ボランティア活動助成事業は令和3年度で終了し、令和4年度は地域福祉活動サポート助成事業という名称で実施。7月時点で募集終了している。)

地域福祉活動サポート助成事業について

東区を主な活動拠点とする非営利の地域福祉団体の、当年度に東区内で実施する地域福祉活動に対して、事業に係る経費または活動のための備品購入の経費を助成する事業。

(詳しくは東区社会福祉協議会へお問い合わせください)

地域の「隠れた功労者」表彰で活動促進

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■委員の成り手不足と、地域活動への意識向上が大きな課題

- ・日頃から目立たないけれど、誠実に地域貢献活動に取り組んでいる人に感謝を表したいと考えていた。
- ・町内会加入率は名古屋市の平均よりも高い学区である一方で、役員の成り手不足や、住民の行事・催事運営、実行に対する積極的な協力・支援意識、そして参加意識の低さに悩んでいた。
- ・地域活動の実情を知らない住民からは、「役員は報酬をもらっているのだからやるのは当然」などの実情と異なる認識をしている声もあり、地域活動に対する理解度の低さも課題となっていた。

■新たな担い手の発掘へ

- ・解決策のひとつとして、**地域に貢献している個人や団体を「隠れた功労者」として表彰し、住民の感謝の気持ちを醸成すること**を考えた。
- ・令和3年度から始まり、表彰は毎年4回行われ、表彰された人には、感謝状と記念品を贈呈。
- ・表彰者は、学区連絡協議会メンバーが推薦する。目立たないけれど地域に貢献する人を見つける取り組みのため、**新たな地域の担い手を発掘すること**にもつながっている。
- ・表彰者を紹介した広報を回覧することで、住民に地域活動を知ってもらう効果もある。当初の狙い通り、**住民が地域活動に目を向けること**に貢献している。
- ・表彰された活動者からは、「**広報を見た孫がとても喜んでくれた**」といった声もあり、活動者のモチベーションにつながっている。



表彰式の様子

活動する上での工夫やポイント

■課題に対して、みんなが「楽しい」「嬉しい」方法で解決を目指す

- 工夫例① 敬老会の贈り物は、固定化された品物ではなく、ポータブル扇風機やトートバッグなど「もらって嬉しい」品物に工夫 ⇒受け取る人が増加
- 工夫例② 盆踊り大会では、踊ってくれた子どもたちにはおもちゃ、大人には飲み物をプレゼント。踊り方が分からない曲を減らし、幅広い世代が知っている曲目に変更 ⇒参加者増加
- 工夫例③ 芸能祭りでは、オカリナ奏者や、三味線、高校のダンス部など、特技のある人を見つけてきて発表の場を設けた ⇒大盛況を収めた

具体的に進めてみよう

ステップ1 委員長発案のアイデアに若い人の意見の取入れ

- 令和2年度に中村区役所が主催した「中村夢会議」で、「隠れた功労者」を表彰するアイデアを発表したところ、参加した大学生から好評を得たことで、手ごたえを感じた。



小出委員長

前々から、「表彰」というアイデアは持っていました。

大学生などの若者が私のアイデアを参考に、会議で自分達独自の「勝手に表彰」という制度を考えるなど面白がってくれたことで「やっぱりこれはいいんだ。イケるぞ!」と背中を押してもらえました。

ステップ2 役員による隠れた功労者の発掘

- 表彰制度要領を作成し、学区連絡協議会メンバーへ功労者の推薦を依頼。役員に地域活動に対するアンテナを高くしてもらうことも、この取り組みの狙い。
- 表彰の基準は、老若男女を問わないこと、学区内において様々な分野で地道かつ誠実に活動し、貢献度が高いと認められる個人や団体等としている。



保健委員として快適な暮らしを支える方々



秋田 PTA 会長

感謝状の文章は、活動内容に合わせていろいろとアレンジして、その活動をした人だけのオリジナルの感謝状にしています。そんな工夫も、活動を「楽しく」「嬉しく」するコツかもしれません。

ステップ3 表彰者を広報紙に掲載

- 表彰式に向けてオリジナル感謝状の準備と同時に、活動風景の写真撮影、活動内容や想いをインタビューして、広報紙に掲載。表彰者のモチベーションの向上、住民への地域活動の周知を図っている。



活動内容に合わせたオリジナル感謝状



広報ひびつへ掲載

公園を活用する「コマパ」を通じて地域へ

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 深刻な後継者不足に対し、どうしたら参加したくなるかを考えた

- ・今の活動の担い手は、主に 70 歳代。町内会長と区政協力委員を兼ねる負担が大きく、破綻しかかっている。
- ・若い子育て世代がマンションへ入居し急増。反面、地域活動の担い手として期待する 60 歳代が空白に。下の世代をいかに巻き込むか、参加促進を大きな課題と捉えた。

■ 「現役世代獲得作戦」地域のためより、家族のためを入口に

- ・若い世代は「地域のため」という意識がまだ芽生えていないため、防災・防犯や子育てをきっかけに「家族のため」から参加を呼びかけようとした。

① 公園利活用愛護会

公園整備に合わせ結成。若い世代が役員となり、清掃だけでなく利活用にも取り組む。

② 汐路てくてく（ウォーキング）ネットワーク

1 チーム 5～6 名で日々散歩を通じ交流、SNS で歩数目標登録・達成度を報告。

③ 青色防犯パトロール

PTA とシニア合同で下校時の見守り活動。

車両にチャイルドシートを備えることで、参加促進。



活動する上での工夫やポイント

■ 環境やライフスタイルの変化に合わせた改革

- ・夏季の屋外での見守り活動の熱中症対策のため青パト車を導入。高齢者や乳幼児のいる若い世代にも参加しやすい方法を模索する。

■ 子育て世代に刺さるような広報戦略

- ・子どもやその親世代の目にとまるよう、オリジナルキャラクター「助けアイちゃんと助けタロウくん」を採用。



■ 地域から産業界へ働きかけ！

- ・働きながらも参加できるよう、「地域活動特別休暇」新設を経済団体に申し入れ。リモートワークの休憩時間を活用し、短時間でも参加してもらえたら、と考えている。

具体的に進めてみよう

ステップ1 子育て世代とともに、市に公園整備を要望

- 地域に長い間公園がなかったが、公有地が空き地になることがわかり、地域の子育て世代の意見を聞きながら、名古屋市に公園整備を要望。

ステップ2 検討ワークショップの開催(2年間で9回)

- 要望開始から、市とともに地域検討会を開始。公園施設の検討よりも、「**どう使いたい**か、**公園で何をしたいか**」を、**とことん検討**。安全に子どもが遊べ、大人には憩いの場となる公園を目指した。

ステップ3 駒場公園「コマパ」OPEN!

- 令和4年の公園OPENと同時に駒場公園利活用愛護会（コマパ会）を立ち上げ。
（コ）子どもも大人も、
（マ）まちのみんなで見守り、育み・育まれていく
（パ）パーク。この実現に向け取り組む。
清掃だけでなく、利活用にも取り組むのは名古屋初。



月2回のラジオ体操の様子

- 愛護会活動には100名が参加し、役員を若い子育て世代が担う。
月2回の活動日だけでなく、LINEで企画を募り、イベント（水鉄砲大会等）を開催。
- 月2回のラジオ体操&清掃活動には80名が参加（子どもが半数）



西崎委員長

私の家が公園の前にあり、子ども達が喧嘩の仲裁を頼みに、チャイムを鳴らすこともある。**公園利活用に携わる若い世代が、いずれ他の地域活動の担い手となってくれたら、と願います。**

活用した制度など

■公園愛護会として活動

- 公園を楽しく使える工夫・ルールづくり・季節のイベントの企画・運営までの幅広い活動を、地域の子どもから大人まで三世代協働で行う場づくりを目的としている。
- 公園愛護会制度を活用し、除草や清掃など従来型の活動に加えて、子育て世代の関心が高い利活用に関する活動を行っている。
- 駒場公園では利活用に関する目的や役割分担を明確にするため、名古屋市・愛護会・学区連絡協議会の三者で協定を締結している。
（詳細は、緑政土木局緑地部緑地利活用課へお問い合わせください。）



名古屋市公式ウェブサイト
公園愛護会のページ

中学生が活躍する見守り隊

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■災害時に高齢者の孤立を防ぐために、若者と高齢者の関係づくりが必要

- ・稲永学区は、地震や津波等が起こった際に被害が大きいことが予想されており、**災害に対する危機意識**を強く持っている。
- ・学区の高齢者の割合は、港区全体の平均より高く、災害時には、高齢者は若者に助けてもらう場面が多くなると想定される。
- ・災害時に若者との絆が突然生まれるわけではないので、**日常的に学校と関係づくり**をすることを意識している。

■中学生が地域の高齢者宅を訪問し、交流を深める

- ・このような背景から、高齢者と若者が日常的につながるため、**中学生が地域の高齢者宅を年2回（6月と10月）訪問**し、交流を深めている。
- ・訪問日は、中学生が高齢者宅に安全に到着できるよう、民生委員をはじめとする**学区関係者も見守りを行う**。
- ・訪問を経験した**中学生が、将来地域に関わってほしい**という思いがある。

活動する上での工夫やポイント

■コロナ禍でも、手紙を通じて関係を継続

- ・コロナ禍で家庭訪問ができていない状況下でも、中学生と高齢者の関係づくりを続けるため、年2回「**励ましの手紙**」を中学生から高齢者に送っている。
- ・手紙のやりとりは学校が調整し、**郵送費は学区が支払う等の役割分担**を行い、お互いができる範囲で取り組んでいる。



岡松副会長

私自身も、生徒から手紙をもらいました。とても感動しました。

【港南中学校 HP でも紹介されています！】

港南中学校 URL : <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/konan-j/report.html>

具体的に進めてみよう

前提 確かめ合い、知識を深め、関係を築く

- まずは、**学区関係者が**、災害時への備えが必要ということを**確かめ合う**。
- 市の防災センターや地域の防災拠点等を訪れ、**防災に関する知識を深める**。
- 学校や消防署、ご近所さん等との**何気ない会話**を続け、日常的に関係性を高める。

ステップ1 何を、誰と取り組むかを考える

- 高齢化が進む地域において、災害時には若い力が必要になると考える。
- 若い力の中でも、日常的に地域で過ごす「中学生」と取り組むことをイメージした。
- 中学生が高齢者宅を訪問して交流する「見守り活動」を計画する。

ステップ2 学校との交渉

- 中学校からの賛同を得るために**粘り強く交渉**する。
 - ・役割やメリットを明確にし、学校との関係づくりをすることがポイント！
 - ・なぜ、中学生が高齢者宅を訪問するのか。
 - ・訪問先でどのようなことをするのか。
 - ・中学生と高齢者が関わることでどのような効果があるのか。

- 学区と学校、行政が連携し、継続して活動ができる状態にする。



伊藤委員長

訪問活動のスタートまでに約1年半を要しましたが、実現に向けて、粘り強く話し合いを続けました。

ステップ3 訪問までの調整（中学校の役割）

- 訪問チームの割り振りや、高齢者への個別連絡など、事前調整は中学校が行う。
 - ・中学校の役割
 - ・3人一組の見守りチーム分け
 - ・中学生の訪問先の割り振り
 - ・訪問先への事前連絡・お願い



見守り隊の様子



桑原書記長

私達は、道の角に立って中学生の「見守り隊を見守る」という役割です。とても素晴らしい支え合いの活動だと思っています。

地域の既存組織の役員だけでなく、多くの方がボランティアとして地域活動に参画し、地域づくりに貢献していただいています！



どのような活動があるの？

平子

「平子みまもり隊」として、小1児童の毎日の下校時の付き添いや全児童の下校の定点見守りを行っているよ。

他には、青パト車でパトロールする「青パト隊」、庭の樹木の伐採など高齢者のお困りごとを解消する「支え合い事業」などがあるよ。



良かったことは？

平子

「平子みまもり隊」の例で言うと、児童にとっては家庭と学校以外に地域住民との交流機会ができ、社会性や協調性が養われていると感じています。

それに、ボランティア活動の参加者は高齢者が多く、生きがいや健康づくりになっていると思います。



工夫していることは？

平子

「気が向いた時に」「勝手に」「生涯」「できる範囲で」「おせっかい未満で」ということをポリシーにして、活動を強制しないことかな。

地域におけるつながりを広げていくことが大切だと思っているから、組織という形に捉われず、誰もが楽しんで参加できるようにしているよ。

ポイント！



単一機能(組織)からの脱却



ムリなく続く緩やかなネットワーク

地域活動の参加者を増やすためには、活動の頻度や時間に制限をかけず、参加しやすい環境を整えることも必要なのかもしれません。



(2) 運営の工夫

お悩み

活動を効率化して、役員の負担を軽減したい

- ▶ 地域活動には多くの業務があり、定年年齢の引き上げなどによる運営の担い手不足も重なって、特定の個人に負担が集中してしまい、活動が行き詰まることがあります。
- ▶ 負担を感じつつも懸命に頑張っている人も多くいらっしゃいますが、「役員は負担が大きい」と思われてしまい、引き継ぐ新しい役員を確保できないこともあります。



解決へのヒント・工夫

工夫① 参加回数や当番はキッチリと定めない

参加回数や当番を明確には決めないことで、「やらされ感」や「負担感」を減らすことができます。
誰もが無理のない範囲で活動に参加できるように工夫することが負担軽減には有効です。

工夫② 役割を明確化し、個人に負担が偏らない運営方法に

特定の個人に負担が集中しないように、仕事の棚卸しを行い、個々の役割を明確にしたり、ひとつの役に複数の人を充てたりすることで、負担軽減につなげることができます。



気軽に活動に取り組める「こだま見まもり隊」

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■「気軽に」参加できる見守り活動

- 学校の登下校時の見守り活動を行う「こだま見まもり隊」は、平成 25 年 10 月に発足した。現在は、50 代～80 代までの 36 名が登録している。
- 近隣学区が見守り活動に取り組む姿を見て、「自分たちの学区でもできるのではないか」となったことが始めるきっかけとなる。
- 児玉学区では、誰もが無理のない範囲で活動できる「フラットな状態」で活動している。
- 町内会の役員を経験した人が、ゆるやかに地域活動に関わり続ける場としても機能している。

■ 帽子を被ってフラッと散歩するだけでも貢献できる！

- 共通のルールは、「こだま見まもり隊」の「帽子」や「ベスト」を着用して活動することだけ。
- メンバーは、毎日のように通学路に立つ人や、お散歩ついでに見守りをする人、通学路の危険箇所などを探す人など、多様な方法で参加している。



お揃いの帽子やベストで活動

活動する上での工夫やポイント

■ 見守り活動への参加を強制せず「やらされ感や負担感」が軽減

- 参加回数の強制や当番などは、やらされ感や負担感が増えてしまうため、キッチリとは決めないことにしている。
- 「メンバーになればボランティア保険に入れるよ」というくらいの誘い方をすることで、「ゆるく、気軽に」参加できるということをアピールしている。
- また、保護者へのお誘いについても、学校からの「依頼」となると気が重くなるので、あえて依頼とせず、地域内の回覧での情報提供にとどめている。

具体的に進めてみよう

ステップ1 他学区の活動からヒントを得る

- 元々、個人的に通学路に立ち子どもを見守る人がいたが、**近隣学区が見守り活動を始めたことをヒント**に、児玉学区でもやってみようと、トワイライトスクールの関係者など約30～40名が集まって活動が生まれた。

ステップ2 多様な関わり方を受け入れる

- 参加回数の強制や当番決めなどは、キッチリとは行わず、**多種多様な方法での無理のない見守り活動**を受け入れる。

・メンバーはこんな関わり方をしている！

- ・犬のお散歩のついでに見守る人
- ・買い物のついでに見守る人
- ・毎日通学路に立って見守る人
- ・歩きながら危険箇所を探す人



通学の子どもたちを見守る



広瀬委員長

見まもり隊の「帽子」を被る、あるいは「ベスト」を着てまちを歩くだけでも、防犯に対し効果があります。

ステップ3 問題の発見、改善

- これまで、年に一回「情報交換会」を連合町内会で開催し、**お茶飲み会のようなゆるやかな雰囲気**で地域の情報を交換していた。
- 情報交換会での**“雑談”**から、身の回りで起こっている問題を発見し、改善方法を考え、実施する。

(例)

- ・安全性向上のための通学路への防犯カメラの設置
- ・見守り活動をしているということが伝わる「ベスト」の購入



広瀬委員長

見守り活動は、自分の健康のためにもなっています。学校にも「助かっている」と言われるなど、楽しく活動を続けています。

事務の役割分担と複数人体制の導入で負担軽減

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

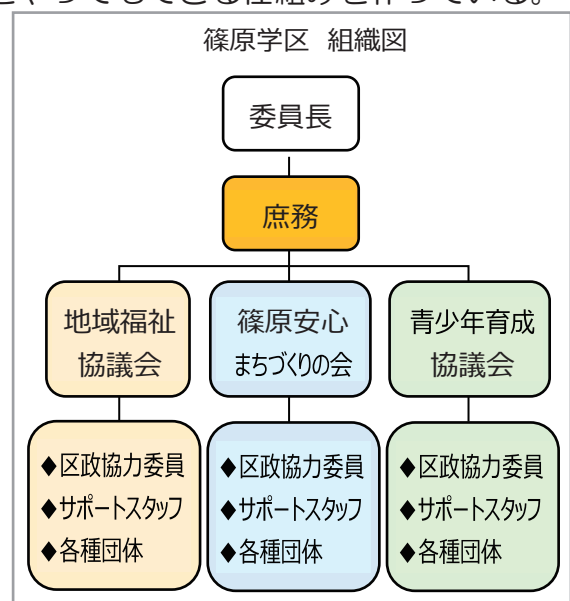
外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■庶務、サポートスタッフを創設

- これまで委員長が一人で担ってきたことを「庶務（2名）」で書類作成をすることにし、「書類（記録）を残す」ことで、今後だれが役員をやってもできる仕組みを作っている。
- また、学区に地域福祉協議会等の部署を設け、各団体の役員が所属し、それぞれのリーダーが副委員長として様々な行事を担当している。
- 区政協力委員のOBや各種団体役員等による有志を「サポートスタッフ」として登録し、各部署の活動に協力してもらっている。
- サポートスタッフの中には高校生もいる。やりたいと保護者を説得し、自発的に保護者同意付きのサポートスタッフ申込書を作成・提出し、活動している。



■やりたいことをやれるように、みんなで考える

- 盆踊りや餅つき大会といった行事は「町内会費の還元」の意味もあり、多くの地域の人に参加している。コロナ禍でもどうやったらやれるか、みんなで知恵を出し合った。
- 行事は執行部が下支えをし、様々な人が楽しく自由に参加できるように心掛けている。

活動する上での工夫やポイント

■仕事や家庭、子どもが第一！

- 地域活動はボランティアなので、強制は一切しない。やれる人が、やれるだけやればよい。10分でも手伝ってくれる人を許容し、大歓迎する環境づくりが大事。
- 仕事や家庭、子どもを第一に考えてよいので、活動や準備への出入りは自由。そうすることで、地域への時間をあまり割けない人も、気楽に手伝いに来ることができる。

■学区は、自分が動けば変えることができる「一番身近な政治」

- 自分たちが動けば、地域が変わるということを学区活動で実感できる。それは社会参画の第一歩ともいえる。「こうやると地域を変えられるんだ」という意識が芽生える。

具体的に進めてみよう

ステップ1 事務仕事専門の役職を創設

- 学区の活動の種類は多く、委員長をはじめとした役員に集中している。次の役員が現在と同じように仕事ができるかどうかはわからない。そこで、書類や記録作成の専門の役職を設け、書面にきちんと残すことで、誰でも役員の仕事を引き継げる体制を作った。



森委員長

篠原学区では、委員長一人に仕事が集中していて、次の役員の担い手を探すにあたって、誰でも役員の仕事をできる体制を作る必要があると考えました。

ステップ2 3つ目の部署の創設と仕事の分担

- 学区にはこれまでに「地域福祉協議会」「青少年育成協議会」があり、様々な取り組みを分担していたが、3つ目の「篠原安心まちづくりの会」を部署として立ち上げ、各部署のリーダーを学区の副委員長として位置づけ、役割の分担を行った。
- さらに、区政協力委員、各種団体をいずれかの部署に所属するよう振り分けている。

ステップ3 サポートスタッフの活用

- 区政協力委員のOB やスポーツ団体役員など有志の方にサポートスタッフ登録をしてもらう。地域の活動経験のあるサポートスタッフがいることで、役員の負担軽減に。
- 行事や活動が楽しいとサポートスタッフは増加傾向に。

楽しんでもらえる行事の工夫も

■盆踊りでは子どもの絵の作品展を実施

- ・令和4年の盆踊りでは、450人分の作品を展示した。
- ・子ども自身も、親も、祖父母も見に来てくれる。
- ・参加賞として盆踊りの模擬店で使える金券を配布。
- ・市長賞をはじめ最優秀賞等、多くの賞を準備し、表彰している。



応募されたポスターすべてを展示



市川副委員長

子どもたちには、学区の活動を通じて地域とつながりを持ち、大人の思いを感じてほしいと思っています。

学区連絡協議会のメンバー間のグループ LINE をつくり、会議の連絡や資料データの送付を行ったり、イベント情報やコロナ・防災の情報を素早く発信し、情報共有の効率化や積極的な広報に役立てています！



LINE を使えない人はいなかったの？

スマホを持っている人は多いけど、持っていても LINE の使い方が分からない人がいたから、分かる人達で丁寧に教えたよ。
それと、スマホを持っていない人にはメールで個別対応しているよ。

豊岡



始めて良かったことは？

以前は電話や FAX で連絡していて手間がかかっていたけど、今は素早く簡単に連絡できるようになったよ。
また、資料の写真を撮って送ればすぐに内容を共有できるので、とても楽！

豊岡



苦労したことや、工夫したことは？

はじめは、なかなか【既読】にならなくて、結局、電話で連絡していたけど、見たら必ず「了解」と返信してもらうようにしたんだ。

導入して 2 年が経った今では、見るのが習慣になったし、入力にも慣れて、双方向でやり取りができるようになったよ。

豊岡

ポイント！



できない人を取り残さない

簡単なルール設定で、ゆっくりと慣れる

時間がかかるかもしれませんが、デジタル技術に不慣れな人を含め、どんな方でも無理なく続けられるように配慮することが、スムーズな運用に向けて必要なことなのかもしれません。



(3) 参加促進

お悩み

活動や行事への参加者を増やす方法が分からない

- ▶ 定年年齢の引き上げや、共働き世帯の増加など、ライフスタイルの変化により、従来の活動だけでは町内会や自治会との関わりが少なくなっています。
- ▶ 盆踊り大会や餅つき大会など、身近な場所で子どもが喜ぶイベントがあれば参加したいという方もいます。

💡 解決へのヒント・工夫

工夫① 子ども向けイベントを通じ、参加者を増やす

地域の行事に、親子で関われるプログラムを企画し、子育て世代の参加を促している事例もあります。まずは、「お客さん」として参加してもらいながら、子どもが喜ぶプログラムのアイデアを募るなど、徐々に運営に関わる機会を設けてみる方法があります。

工夫② 学校や PTA をはじめ、子育て世代の団体とつながる

町内会が主催するラジオ体操を、PTA と協力して参加を呼びかけたり、地域のパトロールを小中学校の部活動と一緒に取り組むなど、子育て世代の所属している団体との連携を深めることで、地域活動の役割を知ってもらうことも有効です。



学生へのボランティア活動証明書の発行

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

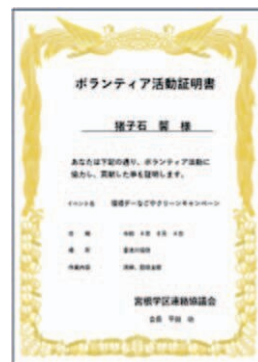
外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■地域での子どもの活動の受入と成果の見える化

- ・猪子石中学校にはボランティア部があり、元々学校内で活動を行っていたが、地域での活動を促し、活動を行った学生たちの参加記録や活動実績となるよう、地域が活動証明書を発行することとした。
- ・学校にとっても、ボランティア部が地域で活動することは初めてのことであり、**学校と地域で連携**しながら取り組みを進めた。
- ・ボランティア活動の経験があることを**今後の高校・大学受験や就職といった進路選択に活かして**もらえることを目指している。



ボランティア活動証明書

■パパの会、おやじの会、PTA 役員のつながりを大切に！

- ・幼稚園のパパの会では、一緒にお祭りを行うなど、同年代の子どもを持つ親のつながりがある。
- ・また、子どもが卒園した後もおやじの会に加入したり、さらに PTA 役員も一緒にやっていたりなど、子どもを介した親同士のネットワークがある。
- ・小学校・中学校の PTA が地域活動のメンバーにいて、**学校との協力もスムーズ**に行うことができる。

活動する上での工夫やポイント

■学校とのつながりを大事に

- ・コロナ禍以前には、学区にある小学校・中学校、高校との交流があり、地域の祭りやイベントへの協力を行っていたが、現在では中止している。
- ・小学生の通学路の交通安全対策等、地域で子どものための取り組みも進めている。学校も地域の一員であり、できることは一緒にしていきたいと考えている。

■強制はしない。それぞれができることを、できるだけ OK！

- ・おやじの会は、コロナ禍以前はソフトボール大会等にも参加する等、活発に活動しているが、活動の強制はしない。
- ・**できるときに、できるだけのことをやればよい。楽しくやることを**大切にしている。

具体的に進めてみよう

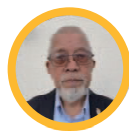
ステップ1 地域での発案・実行

- 中学校にボランティア部があっても、コロナ禍で活動ができていないため、何かさせてあげたいとの思いから、地域がボランティア活動の証明書を発行して、活動してくれた子どもたちに渡すことを考えた。
- そのアイデアを学区連絡協議会の委員長に提案し、了承を得て進めた。



飯田副委員長

自分自身が大学生・高校生・中学生の親であり、将来の進路選択に役立つ経験をさせることはできないか、子どもたちに何か活動をさせてあげたいと考えたことがきっかけでした。



平田委員長

まずは、やりたいと思ったことをやってみることが大事。
口出しするのは、必要最低限だけにしています。

ステップ2 学校との相談・検討

- PTA として学校とのつながりがあるメンバーは、ボランティア部の経緯や状況がわかっていたので、学校と相談しながら、地域の活動に参加する生徒を募集。

ステップ3 実践導入！

- 最初の一步は、環境デーなごやのクリーンキャンペーン活動への参加。これからも行事ごとに参加者を募る予定。
- こうした経験をきっかけに、地域で何かをするときに「やりたい」と思ってもらえるようになればいい。
- 子ども会がなくなっていく中で、地域が子どもやその親との接点を作っていきたいと考えている。



クリーンキャンペーンの様子



地域の中学生も参加

【他都市事例】 川口市「ボランティアポイント制度」

川口市では、小学生から高校生を対象に、ボランティアポイント制度を取り入れ、子どもたちが行ったボランティア活動を記録し、ポイントがたまると認定書の発行や市内施設の招待券がもらえる仕組みになっている。ボランティアスクール、こどもフリーさろん、青少年ボランティア Café など、ボランティア活動に参加するきっかけの一つとなっている。

親子で学びながら参加できるイベントを行う 緑区 大高学区

「夏休み学校宿泊体験会」で楽しみながら避難所体験

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 万一の災害時の備えを、夏休みの楽しい企画の一つとして実施！

- ・PTA 役員を中心に構成されている「おやじの会」では、毎年夏休みに、親子で学校に宿泊する避難所体験を実施。
- ・防災学習や体験だけではなく、花火や虫捕りなど、夏休みに親子で楽しめるプログラム構成にしている。



炊き出し準備

■ 父親同士の親睦を深める目的で「おやじの会」を発足

- ・大高小学校に通う子を持つ父親同士が親睦を深める名目で発足。
- ・最近では「子どもたちのため、親子のための取り組みをしよう」と、ペットボトルロケット作りや、子どもたちのドッジボールチームの指導といった活動を行っている。
- ・学区連絡協議会としても、地域の親子のための取り組みを率先して行っている「おやじの会」を支援するため、組織の一員に組み込み、活動資金面などのサポートを行う。

■ 世代ごとのライフスタイルに合わせた地域との関わり方を採用

- ・若い世代は、仕事や子育てで地域活動に割ける時間が限られているため、子どもたちが喜ぶ活動などで、少しでも地域活動への関わりを続けられることを重視している。
- ・「やりたいこと」を尊重し、「やってよかった」と思える経験を積み重ねることで、学区の他の取り組みへの参加にもつながっている。
- ・おやじの会の取り組みに参加する子育て世代からは、地域の人と関わりが持てたり、地域に入っていけるととてもいい機会となっているという声も寄せられている。

活動する上での工夫やポイント

■ 楽しみの要素を取り入れることで、親子世帯の参加につなげる

- ・親子で参加することを前提に、夏休みの一夜を楽しく有意義な思い出にできるようにという思いで楽しい企画を考え、多くの親子から好評を得ている。
- ・防災学習のため！という色は強く出し過ぎず、「参加しているうちに自然と防災知識が身についている」くらいが理想であるとして、プログラム作りを行っている。

具体的に進めてみよう

ステップ1 様々な機会をとらえて、おやじの会参加のお誘い

- おやじの会はPTA役員を中心に構成されているが、役員以外の方にも参加してもらえるよう、運動会や作品展など、保護者の方が関わる機会に小まめにお誘いしている。



酒井 PTA 会長

「おやじの会」のポロシャツを着て運動会に参加しています。ポロシャツに興味を持った様子の方が居たら、「一緒に着てみませんか？」など気軽な感じで声をかけるようにしています。

ステップ2 学校を通じた案内と参加者募集

- 小学校体育館を利用することもあり、学校を通じて案内文書の配布を行う。
参加募集はプログラムごとに細かく設定することで「この部分だけなら参加してみたい」と参加しやすい工夫をしている。

ステップ3 楽しみながら学べるプログラムづくり

- 当日は以下のように、楽しみの合間に防災の知識も身につく取り組みを実施。

- 1日目（16時頃小学校体育館へ集合）

防災ビデオの視聴

炊き出し（カレー）を作りながら炊飯袋の使い方を覚える

手持ち花火、夜の公園へ虫捕り、宿泊体験会

- 2日目（～12時頃終了予定）

朝食づくり・片付け

ドッジボール体験会



炊飯袋を使った米炊き



酒井 PTA 会長

宿泊体験会では、「防災」を前面には出し過ぎずに、キャンプの延長線上のように、楽しみながら知らず知らずのうちに防災の知識も身につけられる内容にすることを意識しています。



近藤委員長

徐々に顔の見える関係が出来て、若い人から「次はコレをやってみたい」とアイデアが出てきています。

そうしたアイデアがおやじの会の枠組みを超えて新しい学区の取り組みにもつながっています。

どの世代も参加できる楽しいイベントにする 名東区 牧の原学区

リニューアルした運動会で、楽しく参加促進

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■「中断されていた運動会」運営方法とプログラムの見直し

- 子ども会の負担が重く、運営や収支の方法に異議が唱えられ、学区民運動会は平成24年度に中断されたが、**地域住民から再開を望む声が上が**り、**内容を見直すこと**に。
- 子どもからシニアまで、無理なく参加でき楽しいものにしようと、運営方法とプログラムを再編成し、次年度より再開、現在に至る。
- 牧の原学区を超えて、近隣学区の子どもとその親の参加も受け入れ、地域のみなさんが、**義務感ではなく、楽しんで参加できる年中行事**となっている。



■運動会のチラシを手渡すだけでなく、もう一歩踏み込む

- 運動会の種目は、参加を増やすために、あえて年代を設定している。チラシを渡す時に、**渡して終わりではなく、「あなたに、この種目に参加してほしい」と伝える**。
- 運動会だけでなく、地域活動全般で、**断られても「おしゃべりはできた」と考える**ようにしている。多少苦勞してでもダメ元で声をかけることにエネルギーを注ぐ。

■義務感ではやれない、楽しくやる

- 地域活動は、大事な活動だが、誰しも義務感だけではやれない。**対面し交流することがまずは楽しい**、それを忘れない。

活動する上での工夫やポイント

■住宅地で愛される「秋の学区一斉・町内会公園まつり」

- 学区に神社も寺もなく、盆踊りも行われていなかった。
- 町内会のエリアごとにある、適度な大きさの公園を活用**し、秋に町内会毎に「公園まつり」を開催。
- 世代交代で若い世代が入居するが、町内会活動にはなかなか参加しない。無理には誘えないが、**公園まつりは地域を知ってもらう良いきっかけ**となっている。

具体的に進めてみよう

ステップ1 負担を減らして楽しいイベントに

- これまで開催されていた「学区民運動会」は、子ども会の負担が大きいことや、運営方法・収支精算方法に、不満を感じるとの意見が出て、一時開催をやめていたが、再開を求める声はその年度末に上がった。
- 運営方法や収支精算を見直すとともに、「子どもからシニアまで、参加できて楽しいもの」を目指して、他の学区のプログラムも参考に見直しを図った。

No	項目	各町内選手数	町内計	競技内容
1	開会式			旗開会式、選手宣誓、激励体操
2	全員じゃんけん	全員参加		みんなでじゃんけん1年間の栄冠は誰の手に?
[3]	ムカア競争	成人男 6名 成人女 6名 小学生以上男女各10名	18名	9人一組で糸を巻いて競争しよう
[4]	みんな待って 旗争奪リレー	小学生以上男女各10名	20名	大人と子供交互に並び、手をつないだままブレイクダンスを踊りましょう
5	何からどうだーい	幼児、随分		かきまわります。全員集合!ボールを目印して跳びあそび!
6	棒引き	中高生以上 男女各10名	10名	大人と子供交互に並び、手をつないだままブレイクダンスを踊りましょう
[7]	電燈使リレー	成人男 6名 成人女 6名 小学生以上男女各10名	20名	大人と子供交互に並び、手をつないだままブレイクダンスを踊りましょう
[8]	ホーローインフレーション	小学生以上男女各10名	10名	大人と子供交互に並び、手をつないだままブレイクダンスを踊りましょう
9	パン食い競争	幼児一学年男女各10名 随分以上 6名	20名	大人気の競技、餅やかわのパン食いを楽しんでください
10	消防団デモ	消防団員		消防団による放水訓練です
11	ストロークアップ(自己記録 全員100名)			4つの府を回ってボールを投げましょう
12	子供綱引き	小学生 男子 小学生 女子		各校の旗、白旗に分かれて力一杯引っ張り合おう
13	鈴屋玉入れ	幼児、随分		自由参加 みんなで楽しく玉を入れよう
[14]	玉入れ	50歳以上 男女各10名	20名	心を全部入れ、最後に大玉を入れてタイムを競いましょう
[15]	親子大玉	親子各組	10名	親子協力して大玉を上から転がしましょう
[16]	町内対抗リレー	10・20・30・40代 男女各1名	8名	スタイマックスの町内対抗リレー、みんなでお楽しみしましょう
17	閉会式			結果発表、優勝ゲーム表彰

運動会プログラム



鈴木委員長

運営する方達に負担となっていることがわかり、中断した運動会でしたが、再開要望を受け、ただ再開するのではなく、改善することになりました。

ステップ2 精算や運営の方法やプログラムの改善

- いくつかの改善策を導入し、多くの参加で大いに盛り上がる運動会へ
 - ・次年度への残金は作らず、黒字になったら世帯数で割って返金を実施
 - ・チラシへ広告を掲載し収入に充てていたが、負担が大きいため廃止
 - ・当日は50~60名のスタッフで分担し、運営、景品の受け渡しは老人会が担当
 - ・年齢層でカテゴリ分けした、レクリエーションスポーツを増設

ステップ3 積極的な参加者の募集

- 種目ごとに参加できる年齢層を細かく分けているため、参加者を募集する際に、チラシを渡すだけでなく、「あなたにはこの種目に参加してほしい」とピンポイントでお願いするようにしている。
- 子どもは、友達が参加している楽しそうな地域イベントには、自ら参加してくれ、子どもが参加すると、保護者も参加することとなり、地域活動を知ってもらおうきっかけとなっている。

積極的な活動の再開

守山区 小幡学区

コロナ禍でも、地域のつながりを絶やさないよう、参加しやすい工夫や、役員の負担軽減を意識しながら、積極的に活動を再開しています！



どうして積極的に活動をしていこうと思ったの？

小幡

コロナ禍でも、地域のつながりづくりは大切。

もちろん無理はしないけど、感染対策をしっかり行った上で、地域みんなが楽しみにしている行事や活動は続けていく必要があると思っているんだ。



工夫したことは？

小幡

子どもが参加したくなるような工夫をしていて、夏まつりでは、地元企業からの協賛金などで補填して、みたらし団子などを原価が高くて50円で提供しているよ。

子どもが参加すれば、その家族や友達も参加するから、地域活動の新たな担い手を見つける手がかりにもなるんだ。



気をつけていることは？

小幡

役員の負担軽減を強く意識しているよ。

最近は、働いている役員も多いから、学区連協の定例会を週末に短時間で行ったり、行事ごとにマニュアルを作成して、新たな役員でもスムーズに取り組めるようにしているよ。

ポイント！



子どもが参加したくなる工夫



引継書（マニュアル）の作成

マニュアルや連絡先リストなど、地域活動のノウハウを形にしておくことで、初めて担当する役員も安心できるかもしれません。



(4) 愛着・魅力づくり

お悩み

住民に地域へ愛着を持ってもらう方法が分からない

- ▶ 持続可能な地域活動にしていくためにも、子どもからお年寄りまで、多くの住民に地域に関心を持ってもらう必要があります。
- ▶ 地域に愛着を持ち、地域の人や活動を魅力に感じてもらうための取り組みが、活動を続けていくために求められています。

解決へのヒント・工夫

工夫① 地域資源を再発見する

地域にどんな魅力があるか、住民同士で話し合ってみると、自然や歴史など、地域の活用できそうな資源を再発見することができます。

その地域の魅力を活かして地域活動をすることで、新たな人の関わりが生まれて、みんなの関心を高めることにつながります。

工夫② 人のつながりをつくるイベントの開催

「地域行事が子どもたちにとって、心に残る経験になるように」という思い。

想いに賛同する人を集め、参加する人も運営する人も楽しいと思える取り組みが、地域の愛着や魅力となり、ほかの地域活動の活発化にもつながっています。

学区の魅力を活かしてまちおこし

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 住民同士の話し合いから出たアイデアからはじまった

- 令和4年3月、北区が取り組む「健康つながりまちカルテ」事業において、**学区の未来を話し合う中で**、「学区に伝わる妖怪を町おこしに取り入れられないか」とのアイデアが出た。
- 会議の時は、「妖怪」と「学区の未来」の繋がりがピンと来ていなかったが、**従来の役員メンバーに加え、歴史を研究している住民、妖怪のアイデアの発案者を呼んで、熟考。**
- その結果、**妖怪を切り口に**、「大杉学区を安心・安全で住みやすいまちに、3世代が笑顔あふれ優しい気持ちで生活できるように」という**学区の大きなスローガンにつながるイベントを開催することに。**
- また、妖怪のキャラクターを作成して、防犯や防災等の個々の地域活動の広報に活用できないか検討中。



北区が作成した
健康つながりまちカルテ

■ 「妖怪街道実行委員会」を立ち上げ、ネットワークを広げる

- 実行委員会には、地域に住んでいる歴史を研究している方や、「歴女」（歴史が好きな女性を示す略語）に加わってもらっている。
- 企業に協力をしてもらうなど、ネットワークを広げ、**これまで地域活動に参加していなかった人達も巻き込んでいる。**

活動する上での工夫やポイント

■ 相互に参加・協力できるのは日ごろの付き合いがあつてこそ！

- 歴史を研究している住民や、歴史が好きな住民などの協力を得られたのは、役員が学区にどんな人が住んでいるか日頃から目を配り、交流があったからこそできた。
- また、学区内にある「SAKUMACHI 商店街（名鉄瀬戸線 尼ヶ坂駅～清水駅間高架下）」と、妖怪をテーマとしたアート制作を企画しているが、これは突然協力いただけただけではなく、商店街 OPEN 時からの付き合いがあつてこそできた。

具体的に進めてみよう

ステップ1 「どんな世代にも興味を引く」ことを重視したテーマ決め

- 「妖怪でまちおこし」というアイデアは、住民同士の話し合いの中で出たうちの1つだったが、まわりの人の意見も聞く中で、子どもからお年寄りまでみんなの興味を引き、それを活用して多くの世代が楽しめるイベントができるのではないかということで、テーマに決定した。



川村会長

みんなの興味を引くテーマを掲げれば、未来に向けて行動が変わり、地域活動は前を向くと考えています。

ステップ2 一緒に盛り上げてくれる協力者集め

- これまで地域活動に参加してこなかった人も、妖怪や歴史のテーマであればアイデアがある！と、取り組みの企画案出しに協力。
- SAKUMACHI 商店街の企業も、日頃から清掃活動などで一緒に地域活動に取り組み相互に協力しやすい環境が出来ており、今回の企画でも連携したいと考える企業も多い。

ステップ3 考えつく限りの企画出し

- 実行委員会では、企画案を考えつく限り列挙。「今すぐにはできなくても、未来の学区では実現できるかもしれない」と思いつくままに案を出しながら、**まずはできることから試行してみて、開催方法や次年度からの継続を議論検討**する。



川村会長

これまでの地域活動はシニアや新成人など対象者を限っていたが、「妖怪」をテーマにすることで全員参加ができるのではないかと楽しみ。

健康つながりまちカルテとは？

■北区役所 福祉課の取り組み

- ・健康づくりには人とのつながりや社会活動が重要であるとして、北区では、学区ごとの現状や地域資源などのデータをまとめた「健康つながりまちカルテ」を作成。
- ・令和3年から、カルテを活用して、健康づくりにつながる地域での取り組みについて、住民同士で話し合うワークショップを開催。



ワークショップの様子

フラットな関係を大切に、幅広い世代が関わる 中区 老松学区

みんなでつくる「老松公園夏祭り」

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 高齢化による盆踊り廃止の逆境を追い風に変え、実行委員会を立上げ！

- ・区政協力委員の高齢化や担い手不足の課題が深刻化し、毎年実施していた夏祭りを中止する話が出ていた。
- ・「やめるのは簡単。だけど、子どもたちのためにもどうにか続けられる方法を考えよう！」と、PTA 役員が中心となり、**ゼロから夏祭り実行委員会を立ち上げた。**

■ 協賛金を募るなど、持続可能な夏祭りに向けて、実施方法を大きく改革

- ・区政協力委員に頼ったやり方ではなく、実行委員会が主体的に取り組み、継続できるよう、手法を大きく改革。
- ・**「子どもたちの心に残る経験をさせたい」という想いを第一に、趣向を凝らした内容で開催する。**
- ・**地域の企業から募った協賛金を運営資金**とし、協賛お礼品として祭り当日に屋台で使えるチケットを配布。
- ・当初は、土日開催だったが、協賛金をいただいた企業の方も参加できるように、日曜と月曜の開催としている。



毎年子ども会も出店

活動する上での工夫やポイント

■ 人集めは、実行委員のやり方に委ねるなど柔軟に対応

- ・各団体から委員を選出してもらい実行委員会を組織しているが、任期の縛りはない自主的な組織。
- ・運営協力の人員集めは委員のツテを活かすなど、それぞれのやり方に委ねることで、新しい人の流れが生まれている。

■ フラットな組織運営を心掛け、みんなが納得できるまでとことん話合う！

- ・トップダウンで物事を決めるのではなく、それぞれの所属の意見を事前にアンケートで吸い上げた上で話し合うなど、根拠を示しながら、**話し合いの中でみんなが納得できる形で決めることを心掛けている。**

ステップ1 実行委員会の仲間募集

- 「子どもたちの心に残る経験をさせたい」という想いから、夏祭りの開催を提案。
- PTA や PTA バレー、スポーツサークルといった既存の団体に声をかけをし、一緒にやる仲間を募集。団体に関係なくやりたいと思う人の参加も可としている。
- 「子どもたちのために」できる企画を実行委員会メンバーみんなで話し合い、それぞれの団体・人がやれること、やりたいことを担う。



澤田委員長

「子どもたちのために」という想いを大事にして、できないではなく、**どうやってできるかを考える**ことが大切です。そのためには、年齢に関係なく、フラットな関係で意見交換することも大切です。

ステップ2 スタッフや協賛金の呼びかけ

- スタッフや協賛金の募集の際には「子どもたちの心に残る経験をさせたい」という**実行委員会の想いを伝えることを最も大切に**している。想いに共感した人たちが協力するため、これまでのスタッフも「やらされている」という意識はない。
- 地元で飲食店を営む事業者や、小学校の先生も手伝いに来てくれている。
- 協賛金は、実行委員会の自主性を維持していくために、一部の協賛企業への忖度が発生しないよう、**個人や1つの企業から多額の協賛金を受け取らないように**している。

ステップ3 地域に縁のある人の起用

- 地域に縁のある和太鼓や三味線、ダンススクール講師を起用したり、焼きそばなどの屋台に地元飲食店のシェフが協力したりなど、商売が盛んな**立地の特性**や**地域住民のつながり**を活かして、幅広い人を巻き込みながら実施している。



和太鼓チームの発表



澤田委員長

今後も子どもたちのために楽しい思い出を持ってもらいたいと思いますが、協力してくれる方々には「無理はしないように」と話しています。**関わるみんなが楽しく続けていくことが一番大事**です。

地域の歴史と災害対策を一緒に学ぶ

南区 笠寺学区

古墳時代から現代までの地図をもとに、学区内の名所、旧跡を巡り、地域の歴史を学びながら、災害対策を同時に学べるイベントを実施し、地域への愛着づくりを行っています！



どうやって実施したの？

笠寺

元々、歴史のある地域なので、それを活用して地域への愛着づくりを行おうと、南区にある見晴台考古資料館に在籍する学芸員に協力をお願いしたんだ。
まち歩きに使う資料の準備や、当日の説明は、学芸員の方が行って、事前の広報や参加者のとりまとめなどは学区の方で行ったよ。



苦労したことや、やって良かったことは？

笠寺

水分補給やトイレ休憩等に気を配り、熱中症に注意したよ。
地域の歴史と水害時の危険な場所などを同時に楽しく学んでもらえたし、学区住民内の交流の機会にもなって良かった！



参加者の皆さんはどんな様子だったの？

笠寺

住んでいる地域なのに、知らない話ばかりだったみたいで、皆さん説明に聞き入っていたよ。
ルート上に住んでいる顔見知りの方とだったり、参加者同士でも話をしていた、とても楽しい雰囲気だったよ。

ポイント！



地域資源を活用する



話を持ち掛けてみる

地域には様々な趣味や特技をお持ちの人がいますので、役員同士で情報共有し、話に乗ってくれそうな人の目星をつけて話を持ち掛けてみるのも良いかもしれません。



(5) 新しい情報発信

お悩み

効率的でスムーズに情報発信する方法が分からない

- ▶ 活動情報やイベント情報を回覧板で回しても、働いている世代が多いと情報が届くのに時間がかかったり、一度目を通して忘れてしまったりすることがあります。
- ▶ イベントに興味があっても、内容がよく分からなかったり、知っている人が少なかったりすると参加しづらいということもあります。

💡 解決へのヒント・工夫

工夫① ホームページで地域活動が見える化

どんな人がイベントに参加しているのか、自分と同じような世代が参加しているのかなど、情報発信に力を入れることで参加しやすくなります。

チラシやホームページなどで、写真や動画で開催の報告をしたり、雰囲気伝えたりする工夫が有効です。

工夫② 利用者の多いデジタルツールの活用

利用者が多い LINE 等のツールを活用することで、情報をスピーディーに多くの住民に届けられます。

オンライン上で意見交換ができるため、会合を開かずに打ち合わせができるなど、情報発信以外にも効果があります。

ホームページにより活動の発信を行う 守山区 上志段味学区

守山区 上志段味学区 デジタル技術で活動の見える化

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■住民のボランティアによる自治会 HP の運営

- ・近年、宅地開発の進展で子育て世代などの転入が増加。新しい住民に自治会の活動への理解や関心を高めてもらうために、平成 30 年に自治会のホームページを立ち上げた。
- ・コンテンツの充実やスマホ対応などを図るためにボランティアを回覧板で募集したところ、子育て世代の女性 2 名から応募があった。

■自治会活動の“見える化”により、情報共有や対話が活発化

- ・ホームページには、WEB 回覧板、ゴミ収集カレンダー、防災・防犯情報、イベント告知などを掲載。コロナ禍における情報共有ツールとしても効果を発揮。
- ・LINE 公式アカウントも開設し、登録者は 1,000 名超。
- ・自治会活動が見える化でき、若い世代が自治会活動に参加しやすくなっている。
- ・住民の声も届きやすくなり、住民ニーズの把握や早期対応、新しい人材の発掘にもつながっている。



上志段味自治会ホームページ

活動する上での工夫やポイント

■ボランティアの意欲ややりがいを重視し、WIN-WIN の体制を構築

- ・サイト運営ボランティアを手伝ってくれる人を募集し、WEB 制作やグラフィックデザインに関心のある人材を発掘。スキルアップや実務経験を兼ねて取り組んでもらうことで、IT 推進委員会を原則ボランティアとして組織化。

■ICT 化の必要性について自治会の理解を得ながら進める

- ・自治会の ICT 活用には、運営費や役員の負担増、スマホを使えない高齢者への対応など課題も多く、慎重な意見も少なくない。
- ・自治会役員等に ICT 化のメリットを丁寧に説明するとともに、IT 推進委員が作業を担い、自治会に確認をとりながら情報を更新するなど、自治会の理解と予算を得ながら進めている。



WEB 回覧板（自治会だより）

具体的に進めてみよう

ステップ1 役割や活動内容を明確化し、地域でボランティア募集

- 自治会ホームページの運営ボランティア人材を「未経験者 OK」として回覧板で募集。



スキル不足でWEBサイトの存続が困難だったので、具体的な活動内容をわかりやすく示して、地元の人に助けを求めました。

古川自治会副会長 (IT 推進委員会委員長)

ステップ2 希望者と任意のチームを発足して小さくスタート

- まず自治会未公認の任意のグループとして「IT 推進チーム」を発足。自治会への説明と並行して、Twitter や LINE 公式アカウントの取得など、無理なくできることから活動をスタート。



地域の ICT 化を進めるには、自治会の理解と後方支援が不可欠。役員経験者が両者の橋渡しを行うことで、若い人材に自由に活躍してもらうことができています。

水野自治会会長

ステップ3 「IT 推進委員会」として、本格的な ICT 化を推進

- 上志段味自治会の一組織として「IT 推進委員会」を位置づけ。自治会の理解と予算を得てホームページをリニューアル。
- PC の購入や光回線、プロバイダー契約、レンタルサーバやドメイン取得などを準備。
- 自治会会員の高齢者向け無料スマホ教室を月 1 回開催して、効果を促進。

便利でおしゃれな情報発信で若い世代の関心が高まりました。WEB 回覧板など“便利になった”との声も寄せられています。今後は安全・安心な暮らしを支える活動を目指しています。



IT 推進委員
(左) 稲垣さん (娘さん)
(右) 浅沼さん

新たな人材発掘へ

■「ゆるさぽ」(ゆるくサポート)という関わり方

- LINE 登録者などから、自治会活動を応援してくれる新たな担い手を「ゆるさぽ」として募集。
- 自治会のイベントやスマホ教室など、都合のつくときに関心のある活動をゆるやかにサポート。



ゆるさぽホームページ

ICT 活用
事例紹介動画



学区と住民の情報共有の効率

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■学区からの防災・防犯情報、ニュース、行事のお知らせを LINE で発信！

- 学区住民と学区団体の情報共有と相互の連絡を行うため、令和3年9月に従来の回覧板と並行して LINE オープンチャットを使った電子回覧板をスタート。
- 学区連絡協議会が配布する「広報おおつぼ」やチラシの配信、学区内の健康サロンやイベント情報、防犯・防災情報などを配信。



電子回覧板の案内チラシ

■効率的に情報交換できる便利さを改めて実感。

- 電子回覧板開設以前から、学区連絡協議会の部会やイベントの実行委員会ではグループLINEを使った連絡や情報交換を行っていた。
- デジタルツールが苦手な役員もいたが、急な連絡や、複数人での相談や意見交換が効率的に行えることを改めて実感し、積極的に活用するようになった。

■電子回覧板の登録者からは概ね好評を得ており、ニーズは高い。

- 電子回覧板の登録者に感想や意見を尋ねたところ、
「電子回覧板は繰り返し見られるため記憶に残る」
「非常に便利。特に防犯・防災情報が役立っている」
「LINE の場合は一斉に情報が入ってくるためタイムラグが無く、非常に助かる」
といった声があり、好評を得ている。

活動する上での工夫やポイント

■電子回覧板の活用に向けて、まずはスマホ教室の開催からはじめる！

- LINE の利活用は、苦手な人にとっては最初のハードルが高い。まずは、家族同士の連絡や、孫との写真のやりとりなど、楽しいところから覚えられると慣れるのも早い。
- 便利さや楽しさを知るためにも、まずは地域でスマホ教室を開催するのも一つの手。

■導入の際は、事前に管理方法を考えておく と安心

- LINE オープンチャットは参加を自由に行っているため、誹謗中傷や営利目的の投稿を禁止するなど、トラブルに対応できるようにしておく。

具体的に進めてみよう

ステップ1 コミュニティサポーターへ相談してみよう

- 学区役員の高齢化や、新型コロナウイルス感染症の拡大で、「活動に関する連絡や情報交換のために集まることが困難」という課題の解決方法を相談。
- コミュニティサポーターからの提案の中で、**学区から住民に一斉に情報を発信し、学区と住民間で相互に連絡がとれる**、LINE オープンチャットを活用する方法が適しているのではないかと思います、早速挑戦することに！



事務局戸田さん

コミュニティサポーターは、幅広い分野の知識や事例を知っており、**漠然とした相談内容に対しても**、何度も話し合いの機会を設けて、**丁寧にサポート**していただきました。

ステップ2 いざというときのため、規約を設定

- 誰でも参加でき、誰でも情報や意見を発信することができるため、禁止事項を設け、それに反する場合は、管理者による強制退会や、発言の削除ができるようにした。

ステップ3 電子回覧板スタート！

- 主には、以下の2つの情報を流している。
 - ①広報紙やチラシなどをスキャンして、データを投稿
⇒**従来の回覧板では手元に残らない情報も、何度も確認できる！**
 - ②愛知県警が事件や不審者情報をメールでお知らせする「パトネットあいち」のうち、大坪学区に関する情報を投稿
- 学区では多くの団体が活動しているため、今後の展開として、団体それぞれが情報発信できるような仕組みの構築も検討中！

活用した制度など

■名古屋市「コミュニティサポーター」派遣制度を活用

コミュニティサポーター派遣制度（申請窓口は区役所地域力推進室）

- ・町内会や自治会などの地域団体からの相談に応じて、防災や福祉・子育て・広報・ICTなどの分野の知識と経験を有したコミュニティサポーターが地域活動への支援を行う。
- ・「コミュニティサポーター支援事例集」から、具体的な支援内容や、支援を受けた人の声などを見ることが出来る。



支援事例集

町内会・自治会加入のメリット

名古屋市においても、全国的な傾向と同様に、町内会・自治会の加入率は減少傾向にあります。町内会・自治会への加入は任意ですが、様々なメリットがあることを未加入の方に知っていただく際にご活用ください。



地域の人々とのつながりが持てる

災害など、いざというときには、隣近所のつながりが一番の助けになります。阪神淡路大震災では、約 8 割の人が地域住民によって救助されたと言われています。単身世帯でも周囲の人とのつながりができやすくなったり、子育て世帯では、顔見知りの大人が増えることで、地域全体での子どもの見守りにもつながります。



安心安全で快適に暮らすことができる

町内会・自治会では、防犯灯の設置や防犯パトロール、ごみ・資源の集積場所の管理、防災訓練、盆踊りなどの交流イベントの実施など、様々な活動を行っています。地域住民みんなが安心安全で快適に暮らすことができるための活動であり、その活動にかかる費用は会費という形でみんなで負担し合っています。



地域の課題に対応できる

町内会・自治会は、住民と行政をつなぐ役割を果たしており、例えば公園や道路整備など、地域のために必要な社会施設の充実などを地域で検討し、関係機関へ働きかけるなど、個人や家庭だけで解決することが困難な課題に対応することができます。

＼町内会加入促進ツール／



町内会・自治会 PR 動画
「もしも町内会がなくなったら…」

区役所に用意していますので、お気軽にお問い合わせください！

(6) 外部との連携

お悩み

外部の力をうまく借りる方法が分からない

- ▶ 防犯・防災活動や見守り、回覧板などによる情報共有、季節の行事や住民同士の交流など、多岐にわたる地域活動により、役員になると多くの時間を割いて対応することになりがちです。
- ▶ 地域の中で負担が大きくなってきた時には、他の団体の力を借り、活動や行事の一部を任せるなど、取り組み方を見直すことも重要です。

💡 解決へのヒント・工夫

工夫① 活動の企画・運営に、外部の団体や人の力を借りる

防災や福祉など、専門性が必要な活動や、日頃接点のない子育て世帯とのつながりづくりに、地域の他団体や、学生ボランティアに協力をお願いし、企画や運営の手助けをしてもらうことで、役員の負担軽減を図っている地域もあります。

工夫② 区役所や社会福祉協議会の取り組みと連携する

様々な事業や制度を区役所や社会福祉協議会は実施しています。相談して活用を検討してみましょう。

また、名古屋市のコミュニティサポーターを活用して、地域活動へのアドバイスやサポートを得ることも解決の助けになります。

相手のニーズやお互いのメリットに留意する 熱田区 白鳥学区

学生や事業者等との連携

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 熱田まつりをはじめ、様々な地域活動に多様な人材を発掘・登用

- ・「熱田まつり」の奉納行事である献灯まきわらでは、地元の各町内会から役員が出て奉仕しているが、近年は高齢化とともに人材発掘が課題となってきた。
- ・そこで、地元の中学校に相談し、**将来の地域の担い手となる中学生にボランティアを依頼**。地元に関心がある学生がまつりに参加するとともに、わがまちへの誇りや愛着を育む貴重な機会となっている。
- ・他の地域活動においても、様々な団体・組織と協働し、新たな人材の発掘や登用を進めている。また、**必要に応じて民間事業者への外注も効果的に活用して人材不足を補っている**。



買物支援

【多様な人材・組織との連携の主な実績】

熱田まつり	・ 中学校の生徒
防災コンサート 防災講演会	・ 熱田区子ども会育成連絡協議会 ・ 熱田区女性協議会 ・ 熱田区区政協力委員協議会 ・ シルバー人材センター（※外注）
買物支援	・ 熱田区社会福祉協議会
子ども食堂	・ (一社)愛知子ども応援プロジェクト ・ あいち子ども食堂ネットワーク ・ 熱田区社会福祉協議会
白鳥お助け隊 (地域支えあい事業)	・ 個人ボランティア ・ 熱田区社会福祉協議会
あつた夢おどり	・ あつた宮宿会 ・ 熱田区女性協議会
広報誌作成	・ 地元印刷業者（※外注）
まちづくり全般	・ 名古屋学院大学 ・ 名古屋市コミュニティサポーター（HP 立ち上げ等）

活動する上での工夫やポイント

■ 多様な関係機関等との日常的な交流を通じて幅広いネットワークを構築

- ・ **日頃から学区内外の様々な関係機関・団体と積極的に交流を図っている**。
- ・ 日常的な交流を通じて幅広いネットワークを構築し、地域活動の連携・協力先として、協働による地域づくりを効果的に推進。

ステップ1 地域活動に必要な人材及び依頼内容を明確化

- 地域活動の持続・発展を図るうえで不足している（補いたい）機能や役割を明確にする。
- 連携したい組織・団体と、相手の強みや役割などを想定しながら支援・協力を依頼する。
- 相手のニーズや目的、メリットにも留意して、よりよい協働のあり方を丁寧に協議する。



池田副委員長

最近、企業は地域貢献の意識が強く、大学も地元と連携したいという希望をもっています。

相談を受けた際には、相手のニーズを丁寧に汲み取り、お互いによりよい協働のあり方を考えて動くことが大事です。

ステップ2 協働のパートナーとしてともに実践

- お互いの立場を尊重しつつ、一定の役割を任せて主体的・能動的に活動してもらう。
- 相手が活動しやすいように、環境づくりなど、適宜柔軟な後方支援を行う。
- 参加者もスタッフも楽しめるような工夫や、交流できるような仕掛けを盛り込む。



子ども食堂

ステップ3 感謝を伝え、成果を共有

- 協働によって得られた成果を相手と共有し、感謝の気持ちを伝える（謝礼を支払う）。
- 相手の感想や評価、今後の参加・協力意向を把握する。
- 今後のよりよい地域活動に向けた課題を整理し、推進体制や協働のあり方について検討する。



中田委員長

今でもなんとか担い手を確保し地域活動を持続できています。

一方で、学生・企業との連携などは自前では難しいため、名古屋学院大学や熱田湊まちづくり協議会との連携の意義は大きいです。

「日本語しゃべろうかい」

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■学区に増える外国人住民の相談ごとに寄り添う形で取り組みを開始

- 学区にある市営住宅では、日本語が殆ど話せない住民や、日本の文化や生活習慣の違いから、生活していくうえでの困りごとを抱える住民が多かった。
- 令和元年 11 月頃、地域に住む外国人住民からの相談を受け、「**まずは顔の見える関係作りから**」と様々な交流活動を行った末、外国人住民が抱える課題の根本である日本語教室を開設。

■日本語が得意な外国人住民をはじめ、ボランティア 50 人余りが参加

- トワイライトスクールで英語を教えている方や、元高校の先生など地域内外の人材を活かしながら、地域の中でのつながりづくりも併せて行っている。
- 地域住民と親しくなることを第一に**、それぞれの人の顔と名前、あいさつや自己紹介の仕方から学ぶ。
- 漢字の読み方や意味をはじめ、学校から持参を依頼された「雑巾」が一体何か？など、**生活していくために必要な様々なこと**について、大人から子どもまでが学びに訪れる。



日本語教室の様子

活動する上での工夫やポイント

■「どうしたらできるか」を投げかけ、手伝う本人が楽しめる環境を作る

- 役員があらかじめ計画案を作りつつも、「日本語教室をやりたいが、どうしたらやれるか」と協力者へ投げかけ、「**やらされ仕事**」から「**やってみたいこと**」への転換を促す。
- 運営リーダーとなってくれる人には、本人がやりやすい環境となるよう、ある程度の人選を委ねる。

■なるべく大勢で実施することが、長く続ける秘訣！

- 大勢の人に参加してもらえ**るような運営方法を前提に組織づくりをする。
- 30～40 歳代の若い世代に声をかけるときには、**周りのお友達や仲間と一緒に取り組めるポジション**を整えた上で声をかける。

具体的に進めてみよう

ステップ1 顔の見える関係をつくる

- 困りごとの相談を受けるが、「外国人住民の顔が見えないことには始まらない！」と、市営住宅に住む外国人住民との交流を深めるイベントを実施。市役所協力のもと多言語のチラシも制作。



多言語で作成したイベントチラシ

ステップ2 お悩みを聞く「ごちゃまぜ交流相談会」を開催

- 10年以上毎週定期的に高齢者サロンを実施している場所を活用して、日常の悩み相談を受け付ける交流会を開催。
- 日本語が上手く伝わらない外国人住民の、学校や日常生活での“誰に相談したらよいか分からない困りごと”を聞いたことで、普段から日本語を学べる継続的な取り組みの必要性を実感。

ステップ3 教室開催に向けたチーム編成と、教室の実施

- 毎週開催するため、地域で様々な活動を行う人からボランティアを募り、1回20人程のボランティアチームを構成。
- 教材もあるが、教え方は先生側にゆだね、楽しみながら日本語を教える。毎週先生が変わっていくため、取り組んだ内容を記録したカルテを用いて進度を共有する。
- 子どもから大人までが参加し、参加者1人に対し、1人のボランティアが担当する。



喜多村委員長

多くの人が関わる秘訣は、楽しいこと・活動目的を明確にすることです。活動には、必ず高齢者福祉と青少年健全育成という「福祉」の軸を通して取り組んでいます。

目的が明確であれば、関心ややりがいも生まれやすくなります。

活用した制度など

■ 地域支えあい事業(社会福祉協議会)のボランティアポイントが活動財源

- ・ 地域支えあい事業は、高齢者等のちょっとした困りごと（生活課題）を、地域住民を中心とする多様な主体による支えあいによって解決する活動。
- ・ 地域支えあい事業を実施している学区でボランティア活動を行う方にボランティアカードを発行し、活動に応じてポイントが付与される。貯まったポイントは1ポイント10円に換算され、学区の実情に合わせた方法で還元される。

地元を離れた出身者にも、担い手不足で困っている地域活動のサポートをしてもらい、愛着のある地域をみんなで盛り上げています！



どうやって始めたの？

正色

樹木の剪定や買い物支援など、地域でのお困りごとに対応する「生活安全委員会」を学区連絡協議会の協力のもとで組織したんだ。
「町友」という形で地域外に住む学区出身者の若者も参加してくれているよ。



どうやって若者を集めたの？

正色

いろいろなボランティア活動があって、特技を生かしたボランティア活動隊を募集したり、直接声をかけたり、口コミで広めているよ。
だんだんと増えているので、楽しみ！



始めて良かったことは？

正色

高齢化率がとても高い地域だから、イベントで若者が力仕事をしてくれるのは本当に助かってるんだ。それに、ホームページの編集など高齢者が苦手なことも手伝ってくれているよ。

イベントの企画提案も、高齢者だけでは出ないような面白い発想で、今後も地域の盛り上げに貢献してくれることを期待しているよ。

ポイント！



受け入れる体制の構築



知り合いをツテに協力者の一本釣り

長く住んでいる人や、人脈が広い人から、協力してくれそうな人を紹介してもらい、積極的に声をかけてみると良いかもしれません。



(7) 感染症対策

お悩み

コロナ禍でもできる地域活動の方法が知りたい

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面での地域活動の縮小・中止が余儀なくされる中、人と人とのつながりの希薄化が不安視されています。
- ▶ そうした中、試行錯誤し、感染症対策を行いながら、つながりを継続している地域活動もあります。

解決へのヒント・工夫

工夫① 屋外で実施できるイベント形式への変更

新型コロナウイルス感染症の対策では、密を避けることが求められています。

対策の要点を押さえて、屋外で実施できるイベント形式を採用し、人が密集しない工夫をしながら、人との交流や、子どもたちの体験機会を大切にしている事例もあります。

工夫② 時間指定や人数制限の導入

一カ所に大勢が集まることを避けるため、時間を指定したり、人数を制限したりするなど、主催者・参加者ともに安心して楽しめるよう、工夫しています。

ひと工夫で接触機会を減らしながら活動を継続する 昭和区 滝川学区

「ぶらり滝川スタンプラリー」「コミセンまつり」

担い手づくり

運営の工夫

参加促進

愛着・魅力づくり

情報発信

外部との連携

感染症対策

活動の概要・効果・成果

■ 毎年好評の親子ふれあいフェスタを、密を避けたスタンプラリー形式で実施！

- ・「親子ふれあいフェスタ」は親子連れをはじめ毎年 2,000 人以上が参加する、滝川学区の一大イベントとなっていた。
- ・コロナ禍で各種行事の中止が続く中、令和 2 年には、感染予防策を講じた上で、**学区内を巡るスタンプラリー形式に変更**。
- ・学区内に**複数設置したポイント**を好きな場所から一方通行で巡り、コロナ禍でも安心して参加できる企画として開催！



スタンプラリーチラシ

■ チケット制と時間指定による制限を行いながら「コミセンまつり」も開催

- ・コミセンまつりは、毎年 1,000 人規模の人が集まるイベントだったが、密を避けるため、令和 4 年度は、**前売り入場チケット制**とし、**30 分毎に入場定員を 50 人に設定**。時間指定と人数制限を設けて来場者数を半分の 500 人に制限した。
- ・屋外ブースを充実させた他、**検温や消毒、目視での体調確認など徹底したチェック**を行い、盛況のなか感染者を出さずに終えることができた。

活動する上での工夫やポイント

■ 若い世代も行事の企画・運営に参加する企画部会を設置！

- ・学区連絡協議会の部会の一つに、学区主催の行事に関する企画・運営を行う「企画部会」を設置。**学区行事のアイデア**を協議会に持ち込み、**実行委員会方式で行う**。自治会や子ども会役員以外に、地域活動に興味のある 40 歳前後の若い世代が参加する。

■ 子どもを持つ住民の意見を取り入れながらイベントを開催。

- ・令和 4 年 1 月、企画部会はコロナ禍での学区主催のイベント実施に関して、子どもを持つ住民を中心にアンケート調査を行った。
- ・「**コロナ禍でも活動を続けて欲しい**」という声が多かったほか、学区活動は「**家庭ではできない体験を経験できる機会**」としての認識が強いという結果が出ている。
- ・この結果を受けて、企画部会では開催を前提とした方法を住民に投げかけ、若い住民の意見を上手に取り入れながらイベントを開催している。

ステップ1 コロナ禍での実施方法を検討

- コロナ禍でも地域の交流は維持したいという声を受け、「**どうしたらできるか、何に気を付ければクリアできるか**」を**とことん検討**。最終的に屋外で実施すること、密を避けることの2点が叶う手法を話し合い、「スタンプラリー」のアイデアに至る。



毛利委員長

企画部会で発案された若い人の自由なアイデアを、学区として応援する仕組みが、若い人の励みになっているようです。

普段の連絡はLINEを利用して、イベント運営の相談や、子どもたちが喜ぶブースのアイデアなど、日々意見が飛び交っています。

ステップ2 感染予防の方法を具体的に検討

- みんなで安全に楽しめるイベントにするため、開催にあたってのルールのほか、主催者の感染予防内容や参加者への感染予防協力依頼を共有したうえで実施。

＜開催にあたってのルール＞

- ①感染リスクが低いとされる屋外で開催
- ②学区内にポイントを分散設置することにより滞在時間の短時間化
- ③ポイントによる消毒の徹底や、氏名連絡先の記入
- ④一筆書きでのラリーによる参加者同士の接触機会の回避



ポイントごとに受付を設置

ステップ3 「ぶらり滝川スタンプラリー」の実施！

- 各ポイントに「健康」「防犯」「環境」「歴史」「交通安全」などのテーマごとにゲームやクイズを設け、すべてのポイントのスタンプを集めた人に抽選で賞品が当たる。
- 抽選に応募する際にアンケートを実施し、**感想の他、良かったゲームの投票を行い、次回開催の際に参考に**するなど、改善に繋げている。



コミセン運営委員の長谷川さん

他にも、子ども会独自のイベントとして、水鉄砲大会を開催しました。子ども会に入っていない子も参加できるようにして、「楽しかったら子ども会に入っね」という思いをこめて実施しています。



森川副委員長

子ども会は役員になる負担を感じる家庭も多いです。何を負担に感じているのか、自治会で役割を分担できる仕組みを作れないか、という話し合いも行っています。

